

(様式第4号)

上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	第2回上田市子ども・子育て会議
2 日時	平成28年2月15日 午後1時30分から午後16時00分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	金山会長、津田副会長、宮本委員、白瀬委員、大塚委員田畑委員、志摩委員、下村委員、飯島委員、出崎委員神原委員、田口委員、水野委員、清水委員、 欠席委員 武田委員、矢ヶ崎委員、丸山委員、牧内委員、宮下委員、小池委員
5 市側出席者	【保育課】細川課長、唐沢課長補佐、堀内係長、横田主査【子育て・子育て支援課】 徳永課長、小林課長補佐、羽毛田係長、堀内係長、吉澤係長、川合主事【学校教育課】 白鳥係長【健康推進課】赤羽係長【障がい者支援課】小山係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成28年2月23日

協議事項等

1 開 会(子育て・子育て支援課長)

配布資料

- 資料1 教育・保育施設の量の見込み及び確保の方策について
- 資料2 地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保の方策について
- 資料3 平成27年度 子ども・子育て支援事業【新規・拡充等】
- 資料4 平成28年度 子ども・子育て支援事業【新規・拡充等】
- 資料5 上田市における小規模保育事業について(意見聴取)

2 議 事(進行 会長)

(1) 上田市子ども・子育て支援事業の施行状況について

ア 平成27年度上田市子ども・子育て支援事業の実施状況について

(資料1・2・3により事務局説明)

・以降、協議

(委員) 保育士不足に関して、他のところでは教諭資格を持った人も、保育士として働いているという話も聞かすが、上田市ではどのように取り組んでいるか。

(事務局) 国の方で、教員資格や看護師や准看護師資格保持者も保育士として認めるようになってきているが、上田市内の公立保育園については、保育士以外の者が保育にあたることは考えていない。民間の保育園等で看護師・准看護師について雇用するならば、そのようにやっていただいても構わない。

(委員) 保育補助者の募集についてはまだ検討段階だと聞いている。

一定の講習を受けた方以外に市町村長が認めた方も雇用してよいと聞いているが、特に長時間、乳幼児保育では、保育士資格がなくても経験等、保育補助に有効な人材もある。そういった人材の活用について考えはあるか。

また、資料1の「2号認定・3号認定」に関しては、見込みと確保の実績が同じだが、潜在している希望者はいないのか。もしないのならば、新たな希望者がいないのに地域型保育事業を増やすのはどうかと思う。(このあとの議事で地域型保育事業の検討を予定しているため)

(事務局) 保育補助者の雇用は考えていない。検討する。

保育認定の量の見込みと確保について、見込みと実績に対して確保できる量が多い場合には、0という形で実績を出している。3号認定は年々が増加して、確保が難しい状況になってきている。平成30年以降、量の見込みに対して確保が足りなくなる見込みとなっ

ており、地域型保育事業の設置等で確保していく予定である。

(委員) 地域型保育事業に関して、潜在している子どもが保育を希望して、3号認定が増加しているのではないかと。現在の確保の量(施設)で充足するのではないかと。保育所認可をして、子どもがいなくなったら施設をやめてとは言えない。慎重に認定を行うように。

(事務局) 0~2歳の子どもの入園状況は40~50人増えていく見込み。将来的には子どもは絶対数減っていくと考えられるので、慎重に対応したい。

(委員) 潜在保育士の掘り起しについて、応募6人に対し採用1人だが、不採用の理由は。

(事務局) 通常の基準内で採用したが、民間や他市の保育所の勤務も希望していたので、上田市での雇用には至らなかった。

(委員) 非常勤での雇用ということか。

(事務局) 非常勤職員枠である。

(委員) 放課後児童クラブについて、報告数は平日の利用に関する報告ということか。

(事務局) 平日の利用児童の平均数の報告である。

見込み数字の出し方だが、平日の利用児童数を拾い、実際にいる児童中、利用している児童の割合を各小学校ごと積算しているので、数字は統一した出し方である。

(委員) 見込み量は実績から算出した量と理解した。

見込みと実績で、実績が10人以上上回った施設があるが、最低人員配置数を確保できていない状況ということか。平均の数は確保の量に対して、プラスやマイナスもあるのではないかと。

(事務局) 見込みより10人以上多い点について、確保の量については、児童数と放課後児童クラブの定員を比べて、定員の方が多ければ、確保と定員を同じ値にしている。そのため、確保の量は満たしていると考え。神科小学校に対しては、教室を放課後児童クラブとして利用しているので、確保の量は足りており、基準は満たしていると考え。

(委員) 来期の放課後児童クラブの利用申請もとりまとめが済んだところと思うが、利用見込みに対して充足した量を確保してもらいたい。

(事務局) 可能な限り必要な量を確保していきたいと考えている。

(委員) 資料2の「一時預かり」の事業に関して、丸子地域では見込みは3か所だが、実際は実施しなかったというのは、幼稚園側の都合なのか、利用者との関係でなのか、どちらか。

もう一点、資料3で、「公民館等で親子ふれあい事業」について、対象が少ない地域での開催で参加者が少ないのか、対象は多数いるが参加者が少ないのかなどの分析はしているのか。参加の見込みに対して、実際に参加数はいるのか。

(事務局) 資料2「一時預かり事業」の丸子地域については、1か所は幼稚園の方で対応不可であった。他2園では、施設的に対応不可であり、引き続き施設整備を考えている。

(事務局) 公民館の講座については、本会議に公民館担当がいないので詳しくは答えられないが、今回の調査は子育て支援の新たな事業はあるか、という調査であるので、新たな子育て支援事業の参加者数のみの提示となっている。

(会長) 事業のこれからの振り返りで、たくさん子どもがいる地域で事業を行うとどれくらい人が集まるか、という視点で事業を見ているか、ということだと思うが。

(事務局) 平成28年度に、「平成27年度の事業実績」を出す際には、そのような視点も取り入れて実績調査をしていこうと思う。

(委員) 放課後児童クラブの利用については障がいがある子も受け入れがあると思うが、職員の加配や環境整備の現状はどうなっているのか。

また、発達支援冊子「つなぐ」は、毎年更新ということだが、既に持っている人に対しては、変更点はどのように知らせているのか。

(事務局) 放課後児童クラブの障がい児受け入れについては、人件費で国、県の補助がある。上田市では、エアコンの設置・和式トイレのみだった所に洋式トイレを設置した。国県補助額満額受給しているところは少ないが、人件費についても、障がい児童の受入数に応じて、人件費を上乗せしている。

(委員) 発達支援ノート「つなぐ」の更新については、内容的に大きな変更なく、前年度のもので困らないようであれば、特には知らせていない。内容や支援の方向性が変わる場合には、住所登録しているので、はがき等で知らせる予定である。また、来年度アンケートを実施予定である。

イ 平成28年子ども・子育て支援事業(新規・拡充等)について

・資料4 平成28年度新規・拡充事業について、事務局説明

・以下、協議

(委員) 父親の子育て参加について要望がある。父親の育児参加促進事業に力を入れてほしい。

(委員) 放課後児童クラブ処遇改善事業が今年度より開始している。上田市の放課後児童クラブの中でも、該当する施設が何か所がある。より、その質を高めていくため、施設の改善・職員の処遇改善をし、国の方針に倣い、処遇の改善をしていけばよいと考えた。

(事務局) 処遇については、予算が確保でき次第対応していくつもりである。

(委員) 27年度実績のなかで、学童保育所「トットの家」の実施設とあったが、平成28年度から建物建設が始まるということか。平成28年度新規拡充事業には載っていない。また、学童保育所は古くなってきているが、将来的に新たな建設計画はあるのか。

また、総合計画との整合性はどのように保っているのか。

(事務局) トットの家を2か所から1か所で行えるように予算のめどが立ち次第平成28年度に整備する予定である。学童保育所の古い建物については、小学校の敷地内に可能な限り設置できるよう、小学校と調整中で、検討していこうと考えている。

総合計画との整合性であるが、どちらも計画的に整備していくということになっており、そのように進めていきたいと考えている。

(2) 上田市における地域型保育事業について(意見聴取)

3 事務連絡

個人番号提供について

4 閉会